

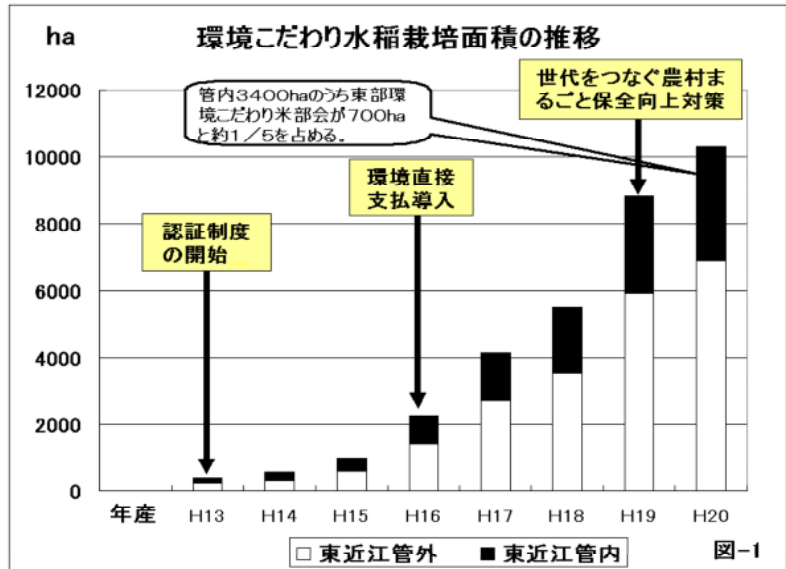
環境こだわり米の生産安定と 品質向上を目指して

東近江地域振興局農産普及課

【普及活動のねらい・対象】

「JAグリーン近江東部環境こだわり米部会」は、現在、部会員数480名、環境こだわり米面積700haと、管内環境こだわり米面積の約2割を占める大組織である。(図-1)

近年、部会員の声として、「品質向上」や「施肥等の省力化」を望む意見が多く聞かれることから、これらの解決に向け支援を行った。



【普及活動の成果】

(1) 栽培基準および基本技術の確認

施肥や除草剤については毎年見直しを行っており、JAグリーン近江と協力して作付け前に研修会を行い、環境こだわり米としての基本事項を確認するとともに、栽培ガイドラインの変更点の確認や品質向上に向けた栽培管理における注意点について周知した。

(2) モニター展示ほの設置と調査結果に基づく栽培技術情報の発信

平成16年よりJAとの連携のもと各支店単位に基幹3品種の生育基準ほを設置し、生育状況の把握と、生育に応じた情報を発信することにより、品質の向上や収量の確保に努めた。

また省力化対策として、追肥作業の軽減を図るため、管内ではいち早くモニター展示でこだわり農産物基準に適合した「基肥一発施肥」や「緩効性肥料」の穂肥利用について検証を行い、結果を基に環境こだわり米部会栽培基準への導入を行った。

結果、品質においてコシヒカリでは地域による差は見られなかったものの、キヌヒカリ・秋の詩については県平均を大きく上回り、特にキヌヒカリにあっては温暖化による品質の低下がいわれるなか、80%を超える一等比率となった。(図-2)

また、こだわり米での「基肥一発施肥」による省力施肥は、要望に応じた技術として水稲協業組織を中心に多く導入され、初年度で120haを超える取り組みとなった。

